

平成24年度第6回理事会議事概要

日 時： 平成24年10月10日（水） 15：30～16：15

場 所： 特別会議室

出席者： 理事長	鈴木 和夫
理事（企画・総務担当）	城土 裕
理事（研究担当）	大河内 勇
理事（育種事業・森林バイオ担当）	井上 達也
理事（森林業務担当）	宮本 敏久
理事（業務承継円滑化・適正化担当）	森下 眞行
監事	滑志田 隆
監事	西田 篤實
総括審議役	森田 一行
総括審議役	安藤 伸博
審議役	渡邊 聡
企画部長	落合 博貴
総務部長	藤江 達之

１．開会

２．議事

本日は、議題が１件、報告が５件となっており、次第に従って報告いただくこととしたい。

（１）職員給与規程の一部改正について

（総務部長）＜資料 - １を説明＞

国に準拠した民間給与との較差の調整を図るための給与改定については先般実施したところであるが、労働組合と引続き協議することとしていた平成２４年４月分、７．７７％相当を１２月期の手当で調整することについて労働組合と合意したので報告するとともに、関連する職員給与規程の一部改正についてお諮りしたい。

また、平成２３年度の較差相当分については引続き協議を行っているところであり、協議が整い次第報告したい。

（宮本理事）

平成２３年度分についての見通しはどうか。

（総務部長）

農林水産関係研究場所の協議団である農林水産省所管独立行政法人賃金改定協議会として引続き協議を行っているところである。

（理事長）

本件議題については理事会として了承された。

（２）平成２４年度理事長賞の決定について

（総務部長）＜資料 - １を説明＞

今年度の理事長表彰については、放射性物質の森林内の分布状況の把握等に関する研究を行った金子、外崎両氏、森林内の放射性物質除染技術等に関する研究を行った坪山氏、放射性物質のきのこへの影響評価、スギ花粉による拡散予測等の研究を行った馬場崎、赤間両氏、ヤナギ超短伐期栽培による木質バイオマスの研究を行った宇都木、上村両氏、「奇跡の一本松」の後継樹育成を行った東北育種場、三陸地方におけるカキ養殖イカダ用スギ丸太の供給など東日本

大震災からの養殖漁業の復興支援を行った盛岡水源林整備事務所を受賞者として
ることとなったので報告する。

(理事長)

本件議題については理事会として了承された。

(3) 平成24年4月期研究コーディネータ公募について

(企画部長) <資料 - 2を説明>

研究コーディネータは、中期計画における重点課題を推進、統括する業務を行うとともに、森林・林業、木材産業に関する総合的な試験研究の企画・調整及び対外的な連携を、研究所運営に関する特命事項を担っているが、今年度末に、木質バイオマス利用研究、木質資源利用研究、林業生産技術研究を担当する3名の研究コーディネータが退職することになっており、その後任について所内公募することとしたので報告する。

公募については、11月19日に応募締切、11月下旬に書類審査、面接を行った上で、平成25年4月1日に発令することで準備を進めている。

(理事長)

本件報告については理事会として了承された。

(4) 環境報告書の公表について

(森田総括審議役) <資料 - 3を説明>

平成24年度環境報告書を公表したので報告する。

まず、研究開発部門を対象にした環境報告書()については、平成23年度から「第 期中期計画」が始まり、研究開発、環境目標についても、新しい中期計画に即したものとなっている。

平成23年度の環境目標については、「上水使用量の削減」、「グリーン購入」について目標に及ばなかった。上水使用量については、配管の老朽化、震災による破損等で漏水量が増加したことによるもので、配管の修繕を行うこととしている。

平成24年度の環境目標については、「上水使用量の削減」以外のCO2排出量、総エネルギー使用量、廃棄物の削減等平成23年度に達成した目標については、平成23年度の目標を上回る数値を設定している。

「環境研究の紹介」では、震災に対応した研究トピックとして、海岸林、放

放射性物質の分布調査、森林の除染効果、奇跡の一本松等を取り上げるとともに、東北支所、育種場、盛岡水源林整備事務所が共同で開催した一般公開など震災にちなんだ事例を紹介している。

ホームページへのアクセス数は、前年度とほぼ同様であったものの、報道機関からの問い合わせについては、森林、木材、スギ花粉、キノコ等の放射性物質汚染、世界自然遺産に指定された小笠原でのミズナギドリなど前年度に比べて7%増加している。

水源林造成事業関係を対象とした環境報告書（ ）については、事業、環境対応に関する数字のアップデートが行われ、林野庁の施策に対応して「木材利用の推進」については「搬出間伐の推進」を新たに追加している。

トピックの中では、震災対応として「復旧・復興用木材の供給」。たとえば仮設住宅向けの杭材、カキ養殖イカダ用丸太の供給、また、島根県で工事期間中にオオサンショウウオを専門施設に一時移動させた事例等が取り上げられている。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

（５）公開講演会等の開催について

（森田総括審議役）

今月、来月にかけて森林総研が主催する一般の方々を対象とした公開講演会等が開催される予定となっているので、その概要について報告をお願いしたい。

（企画部長）＜資料 - 4 - 1を説明＞

10月12日、東京のイイノホールにおいて「巨大災害と森林 - 復興と再生を目指して - 」と題して、平成24年度公開講演会を開催することとしている。

講演会では、独立行政法人放射線医学総合研究所の吉田聡氏による「原発事故による環境汚染と森林生態系への影響」のほか、森林総研から「森林内における放射性物質の分布」、「森林除染と雪解け水の放射性セシウムの濃度」、津波被害を軽減する海岸林の働き、「自身と津波による木造建築の被害」の4件の講演を行うこととしている。

（企画部長）＜資料 - 4 - 2を説明＞

10月18日に本所大会議室において「持続的な食糧、バイオマス生産に貢献する植物ゲノム機能研究」と題して、植物ゲノムの機能研究、遺伝子組換え

技術を利用した新たな植物開発に関する研究の第一人者であり、独立行政法人理化学研究所の篠崎一雄氏による特別講演会を予定している。

篠崎氏は、世界的にも Plant & Animal Science の分野で論文の被引用数ランキング 1 位、学術情報等の発信を行うトムソン・ロイター社から世界で最も注目を集めた研究者ベスト 5 に選ばれるなど著名な研究者であり、この機会にぜひ大勢の方が聴講し、先生がどのように思考し、植物科学をリードしてこれたか学ぶ機会とされたい。

（渡邊審議役）＜ - 4 - 3 を説明 ＞

林木育種センターでは、10月28日に「親林の集い」と称して一般公開を実施することとしており、林木育種センターの業務の紹介とともにパフォーマンスなど地域の方に参加していただく企画も準備している。

なお、開催に当たっては本所、森林農地整備センターからも協力をいただき、森林総研全体として地域への発信ができることになっており、感謝申し上げます。

（企画部長）＜ - 4 - 4 を説明 ＞

日本学術会議の公開シンポジウム「福島原発事故による放射能汚染と森林・木材」が11月7日に日本学術会議講堂で開催される。主催は日本学術会議の農学委員会林学分科会及び森林・木材・環境アカデミーとなっており、日本農学アカデミー、（一社）日本森林学会、（一社）日本木材学会、（財）林学会が後援している。

6名の講演が予定されており、森林総研から高橋COD、外崎四国支所長が講演を行うことになっている。

（理事長）

森林・木材・環境アカデミーは、19の学協会が関わっており、その中軸を森林総研が担っていることもあり、今回報告することとした。

（安藤総括審議役）＜ - 4 - 5 を説明 ＞

森林農地整備センターでは、11月6日に長野市で「信州：森林と地域の共存を目指して - 森林づくりと地域の役割を考えよう - 」と題してシンポジウムを開催することとしている。一昨年は高知市、昨年は熊本市でシンポジウムを開催してきており、今年、長野市で開催することとした。

信州大学の植木教授から基調講演をいただき、その後5名の講演を予定しており、森林総研本所からは岡本主任研究員、長野水源林整備事務所長が講演を行うこととしている。

（理事長）

森林農地整備センターのシンポジウムについて、昨年、一昨年は雑誌等でどのような報告をしていたのか。

（安藤総括審議役）

「山林」、「森林技術」に報告を掲載しており、今年も同様の扱いとすることを考えている。

（理事長）

本件報告については理事会として了承された。

（６）その他

（大河内理事）

議題にはないが、「主要行事」に記載されているとおり、先日カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学（ＵＢＣ）林学部との間の協定書に署名したので報告する。

（理事長）

本件について「季刊森林総研」等への掲載を検討いただきたい。本件報告については理事会として了承された。

次回の平成２４年度第７回理事会は１１月２０日（火）に開催予定となった。

３．閉会